

令和4年度の発掘調査で新たに発見された恐竜化石3点について

(1) 概要

徳島県立博物館では、令和4年10月～12月に福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、県内の化石愛好家、阿波勝浦井戸端塾などの協力を得て、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層（ボーンベッド）の発掘調査を実施した結果、243点の脊椎動物化石を発見し、うち3点は、恐竜化石であることが判明した。

(2) 発見された恐竜化石

(1) 竜脚類の歯（2点）

- ①県内で発見された竜脚類の歯としては、9点目及び10点目。
- ②うち1点は、長さ41mmで、これまでに県内で発見された竜脚類の歯としては、最大サイズ。
- ③これまでに発見された竜脚類の歯と同様、ティタノサウルス形類の歯と思われる。
- ④竜脚類ティタノサウルス形類は全長10mを超える大型の植物食恐竜のグループ。



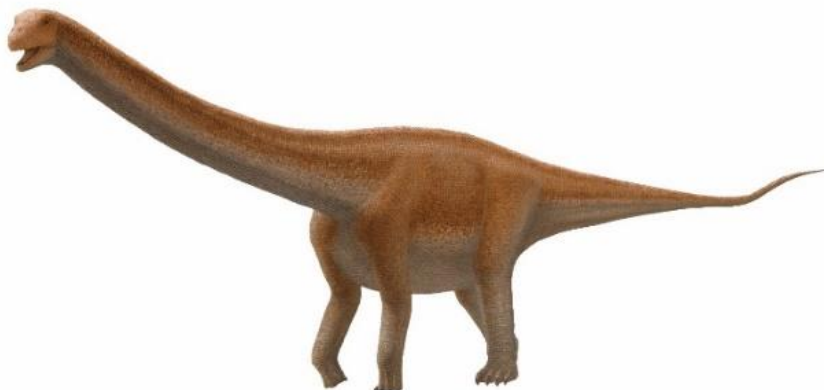
長さ41 mm、幅15 mm、厚さ12 mm

(令和4年10月14日採集)



長さ26 mm、幅11 mm、厚さ8 mm

(令和4年10月21日採集)



ティタノサウルス形類の生体復元画

(画：山本 匠)

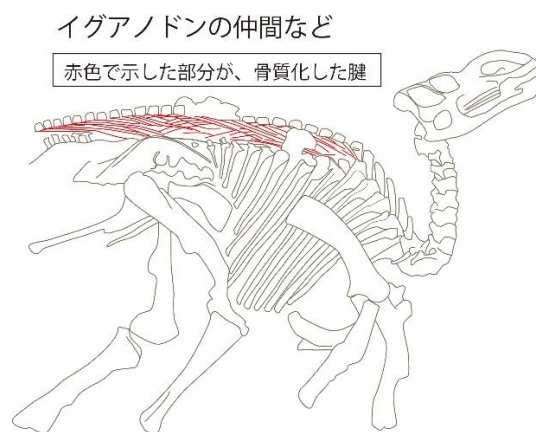
(2) 恐竜の骨質化した腱化石 (1点)

① 県内では5点目となる恐竜の骨質化した腱化石

(※イグアノドンの仲間などは、椎骨を補強するため、椎骨をつなぎ合わせる腱組織をカルシウムで満たして、骨質化させる。)



長さ 24 mm、幅 5 mm、厚さ 2 mm (令和4年11月21日採集)



(3) 一般公開

日時 令和5年3月18日(土)から令和5年4月16日(日)まで

場所 徳島県立博物館 常設展 県民コレクション